

図画工作科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学習活動に取り組んでいる。 ・友達の作品を進んで見ている。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習活動に取り組んでいる。 ・楽しい発想や創造的な技能の工夫が見られる。

☆今年度の教科の重点

- 表現及び鑑賞の活動を通して、体全体の感覚を働かせて、十分味わいながら、楽しみながら進んで活動する。
- はさみ、簡単な小刀など、安全で基礎的な技能を習得する。
- 簡単な言葉で、自分や友達の作品について気付いたことを発表できるようにする。
- 展覧会を楽しみにする気持ちをもつようにする。

☆授業改善の具体例

〈1年生〉

- ・いろいろな道具を使う題材を取り入れ、道具の扱いに慣れるようにする。
- ・感覚を広げて、自由に発想を広げることができるような題材を設定する。
- ・友達の作品のよさに気付けるような場の設定をする。

〈2年生〉

- ・材料の特徴を生かしながら、発想や創造的な技能が広がる題材設定をする。
- ・個別の表現活動とともに、共同で関わる活動も取り入れる。
- ・簡単な小刀（段ボールカッター）などの用具の使い方に関しては、安全に関する指導と個別指導を徹底する。

☆評価・改善

〈1年生〉

評価 いろいろな道具や材料の扱いに慣れ、楽しみながら安全に活動することができた。展覧会では、友達の作品の工夫やよいところに向け、伝え合うことができた。

改善 自分なりの工夫をしながら表現の幅を広げていけるよう、様々な表現や材料に触れさせていく必要がある。

〈2年生〉

評価 危険性を理解して、道具を安全に使用しようとする姿勢がもてた。展覧会などの共同で取り組む作品では、友達と協力して活動することができた。

改善 道具の使い方は上達してきたが、繰り返しの指導が必要である。共同で関わる題材は、様々な関わり方を体験することができるように工夫をする必要がある。

図画工作科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年らしい積極的な表現活動に取り組んでいる。 ・用具や材料を操作しながら、いろいろな発想で表現している。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりたいものやつくり方について、自分なりに工夫して取り組んでいる。 ・効果や方法などを考えながら、用具を安全に活用してつくっている。

☆今年度の教科の重点

- 表現及び鑑賞の活動を通して、体全体や手の感覚と創造的な技能を十分に働かせながら、自分なりの発想でつくるようにする。
- のこぎり、金づち、彫刻刀などの安全で基礎的な技能を習得する。
- 自分や友達の作品について、気付いたことや感じたことを言葉や簡単な文で発表できるようにする。
- 展覧会に向けて、前向きに作品づくりに取り組もうとする。

☆授業改善の具体例

〈3年生〉

- ・木や段ボールなど、少し抵抗感のある材料などを活用した題材設定に留意する。
- ・共同でできるものを取り入れたり、大きさを留意したりして意欲的に活動できるようにする。
- ・小割り（2cm×3cmの角材）など、のこぎりで簡単に切れる材料や金づちを題材に取り入れ、木工用具に慣れるようにする。

〈4年生〉

- ・表現活動では、児童が友達の表現のよさを見付け、それを自分の表現に生かすことができるようにする。
- ・のこぎり、彫刻刀などの用具を、安全に留意して活用できるよう指導の徹底を図る。

☆評価・改善

〈3年生〉

評価 木工用具を活用して作品を完成させることで、道具の扱いが上達した。展覧会では、自分の作品の工夫を友達に紹介したり、友達の作品のよさを見付けてカードに書いたりすることができた。

改善 今年度扱わなかった道具（金づち）については、次年度行うようにする。また、今後は学んだ用具を活用できる題材を設定する必要がある。共同で学ぶ題材を増やし、友達から学べる場を設定する必要がある。

〈4年生〉

評価 彫刻刀などの危険が伴う道具を気を付けて使うことができるようになった。友達の作品のよさを見付け、自分の作品に生かすことで表現の幅を広げることができた。

改善 新しく学んだ道具の適切な使い方を定着させ、今後は自分の表現に合わせて活用できるようにしていく必要がある。教師は学んだ道具を活用できる場や題材を設定していく必要がある。

図画工作科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 発想豊かに自由に表現することができる。 電動糸のこぎりなど、これまでの造形的な経験をさらに広げる用具なども安全に活用して活動している。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 個人差を個性として捉えるようなものの見方や感じ方を育てる。 これまでの経験を生かしながら、材料・用具の使い方を工夫して、活動している児童も見受けられる。

☆今年度の教科の重点

- 表現及び鑑賞の活動を通して、感覚を働かせて、自分なりの構想を練り、作る過程なども考えながら、目的に合わせ技能を発揮して表現する。
- 電動糸のこぎりや彫刻刀など、今まで習得した道具を、安全に留意して目的に合わせて活用する。
- 自分や友達や芸術作品のよさや面白さについて感じたことを基に、言葉や文章で発表できるようにする。
- 展覧会の成功に向け、作品づくりやイベント、パフォーマンスも友達と協力して前向きに取り組むようにする。

☆授業改善の具体例

〈5年生〉

- ・自分の表現への意図やつくり方に合わせて、材料・用具などを活用できるような題材設定をする。
- ・自分や友達、また、芸術作品などのよさや面白さを感じ取り、意見を発表できるような場面の充実を図る。
- ・自分の表現の意図に合わせて、電動糸のこぎりなどの用具を活用し、安全に留意して活動させる。

〈6年生〉

- ・自分の表現の意図を明確にししながら、これまでの経験を活用できるような題材設定をする。
- ・芸術作品などのよさや面白さを表現や鑑賞を通じて味わい、さまざまな文化を知るきっかけとする。
- ・自分の表現の意図に合わせて、これまで経験してきた用具を活用し、安全に留意して活動させる。

☆評価・改善

〈5年生〉

評価 新しい道具や今まで扱ったことがない材料を使った作品に取り組み、道具や材料の経験を増やすことができた。

改善 今後は、学んだ用具を、自分の思いに合わせて工夫して使うことができるようにしていく必要がある。年間計画を改善し、既習学習を生かして自分の思いに合わせた描画材や道具を選択することができる題材を多く設定する。

〈6年生〉

評価 スクラッチで音楽を表現した作品では、クレパスの色や形などの塗り方やひっかき方（削り方）を工夫して、自分の思いに合わせて表現を工夫する姿が見られた。

改善 今後は学んだ用具を安全に使い、自分の思いを表現するために効果的に使うことができるようにしていく。鑑賞を工夫し、文化の違いによる表現の違いなども感じて、自分なりの思いをもつことができるような鑑賞の機会を設定する。
また今後も、自分の作品について発表（表現）する機会を設け、自分の意図や考えを伝える経験を増やしていく。

